

**第2回豊岡市農業ビジョン策定検討委員会
会議録要旨**

日時	平成31年1月16日（水）13:30～16:30
場所	豊岡市役所 3階 庁議室
出席者	<p>委員：荘林委員、平峰委員、綿田委員、尾藤委員、木村委員、霜倉委員、吉見委員、小谷委員、田端委員、谷垣委員（名簿順）</p> <p><欠席者>中野委員、植田委員</p> <p>事務局：豊岡市；水嶋部長、石田課長、川端参事、山本係長、沖中 受託事業者（(株)地域計画建築研究所（アルパック））；原田、遠藤</p>
次第	<p>1. 開会</p> <p>2. あいさつ</p> <p>3. 報告事項 前回委員会のふりかえり</p> <p>4. 協議事項</p> <p style="padding-left: 20px;">（1）ビジョン全体の方向性について</p> <p style="padding-left: 20px;">（2）地域別の現状と方向性について</p> <p>5. その他</p> <p style="padding-left: 20px;">・次回委員会について</p> <p style="padding-left: 40px;">平成31年3月8日（金）午後 市役所3階庁議室</p> <p>6. 閉会</p>
<p>2. あいさつ</p> <p>（水嶋部長）</p> <ul style="list-style-type: none"> ・東京での「水辺から始まる生態系ネットワーク」の基調講演でどうしたら住み続けられる地域になるかというテーマで、豊岡が既にそれを実践しているということで褒められた。 ・労働者が激減し、農業者も半分になる予想がある。 ・本日の目標はアイデア・想いを出し尽くすことである。 	
<p>3. 報告事項 前回委員会のふりかえり</p> <p>アルパックより、前回委員会の基調講演の内容や会議での協議内容のふりかえりを行った。</p>	
<p>4. 協議事項</p> <p>冒頭にアルパックより、豊岡市における各地域（豊岡・城崎・竹野・日高・出石・但東）の農業の現状と課題と方向性（案）について、資料4をもとに説明した。次に、委員から各地域についての意見を出し合った。</p>	
<p><u>（2）地域別の現状と方向性について</u></p>	
<p>○豊岡地域について</p> <p>（委員）</p> <ul style="list-style-type: none"> ・農地の大規模化や集約化を進める方向性が出ているが、機械や設備にかかる費用などを考え 	

れば、大規模化すれば単純に利益が増えるわけではない。

(委員)

- ・参考情報にたじまんまの売り上げも追記してはどうか。

(委員)

- ・牧草や藁などの飼料を地域で自給できることは強みで、今後ニーズが増え、但馬牛の価値が上がることも考えられる。それを物語として語れることが大事で、それが強みになる。

(委員)

- ・大規模化や集約化について、極端な話をすると市全体の小学校29校区で29の経営体を作る方がよい。

○城崎地域について

(委員)

- ・大規模化を進めるよりそれぞれで進めていく方が合っているかもしれない。

(委員)

- ・集落営農組合どうしの連携も必要になってくる。

○竹野地域について

(委員)

- ・移住者を受け入れるという観点では第1次産業に就きたい方も多いので、指導者がしっかりいるかどうかは重要である。移住者をバックアップする体制があるかどうか重要。

○日高地域について

(委員)

- ・三方地域は機械を共同で使用する組合ができている。
- ・加工所と朝市があるので、そこに係っていきたいと思っている。

(委員)

- ・スポーツ合宿が盛んなので、宿泊施設に地元食材をさらに供給することが考えられる。
- ・道の駅の駅長が活発に取り組んでいる。

(委員)

- ・スポーツの合宿で来る人に遊びやトレーニングとして農作業をしてもらうことも考えられる。

○出石地域について

(委員)

- ・有機農業をする人が増えてきていると感じる。運営する暮らしの学校では、成長のために農業を取り入れており、実際に生産・収穫・販売をする中で元気になっていくことを実感している。

- ・出石は元気な若い人が多いと思うが、最近は農地を貸したいとの声が増えてきた。

(事務局)

- ・コウノトリ米の無農薬栽培の農地は142haある。潜在的には他にも多く存在する。

○但東地域について

(委員)

- ・3つの小学校区にそれぞれ集落営農の基地を作り、地域で経営者を育て、各地域の農地と人と環境を活かした農業を考えていくのがよいと思っている。
- ・但東地域の農業ビジョンは、豊岡の中でも特に高齢化が進んでいる地域であることを自覚している中で話し合いを行ったもの。
- ・自分や自分の会社だけでなく地域一体となって地域を守っていく意識を持つ人を組織し、地域で経営体としてやっていくことが重要。

○豊岡の地域について外部の視点からの意見

(委員)

- ・農産物の出口をどうするのかを考えなければならない。
- ・内食が減り、市場に出た農産物の多くが食品工場に運ばれる時代であり、そのルートでは付加価値を付けにくい。
- ・コウノトリのバッチを付けると、なぜそれをつけているのか、それは何かという話で盛り上がる。そうした全国で見ても豊岡は特に自然と共生して農業をしている地域ということを認識し、それを出口に結びつけていく必要がある。
- ・6つの地域が同じ方向に進む必要はなく、地域の多様性を保っていくことが重要。農産物を使う立場としても、農業の多様性がある方がありがたい。

(委員長)

- ・豊岡市の中でそれぞれ特色のある多様な地域がある。その多様性を守りつつ、多様性の中で共通性を見出し、ストーリーとして打ち出していくかという観点がビジョン作成において重要ではないか。

アルパックより資料2・3をもとに豊岡市全体の農業の現状や農業構造等の説明を行った。次に、これに対する意見を委員から出し合った。

(1) ビジョン全体の方向性について

○ビジョンのキーワードについて

(委員長)

- ・ビジョンのキーワードの言葉選びは非常に重要。社会的にも関係者も共感できるような言葉にしなければならない。

(委員)

- ・国連食糧農業機関 (FAO) でも、GAPを「農業生産の環境的、経済的及び社会的な持続性に向けた取組」と定義している。持続可能性を目指す豊岡の農業をドーナツ経済やSDGsなど多面的な観点から見ていくうえで、「環境」、「経済」、「社会」の切り口が入っている、ビジョンキ

ーワード例のB案やC案は良いのではないかと。

(委員)

- ・C案は環境・経済・社会という言葉も入り、グッドローカルという言葉の響きも良く、ビジョンの見せ方を考えるうえでも良い標語ではないかと思う。

(委員)

- ・C案について、言葉の響きは良いが、「環境・経済・社会との共鳴」という言葉が曖昧。
- ・B案の「幸せ」というのは大切な価値観。食べることで自分が「幸せ」という考え方もあるし、よい農産物をつくり、食べた人を幸せし、社会を変えていくという気持ちでやるのが重要である。「幸せ」という言葉をビジョンでも取り入れ発信していけばよいのではないかと。

(委員)

- ・これまでによくドキュメンタリーで豊岡を扱われてきたが、コウノトリをシンボリックに扱うものが多く、もっと、深掘りできるし、深掘りしていける物語もたくさんあると思う。まさに農業者の生き方、生き様であるが、そうした価値観をビジョンでも言葉にして発信することが重要ではないか。

(委員)

- ・コウノトリだけが大事なのではなく、コウノトリをはじめとする生き物やそれを育む環境が大事である。B案とC案に入っている「環境」という言葉はとても大切だと思う。
- ・また、生き物は人の会話を育む力もあり、それは「社会」にもつながる。

(委員長)

- ・豊岡の農業者は、農業経営がしっかりしていることに加えて、環境に対しての強い思いも持っている。そうした農業者がまさしく「かっこいい」ではないかと思う。

(委員)

- ・加工された食品を購入して食事をする消費者が増えていく中で、そうした人に農業をどう発信していくかが課題だと思っている。そうした意味では、農業が、環境・経済・社会を持続させていくという訴え方が大切ではないか。
- ・また、これまでも現在も高齢の方々が支えていた農業を次代へうまくバトンタッチしていくことも重要だと思う。

(委員)

- ・持続性や次世代ということでは、「子ども」という言葉はビジョンのキーワードになるのではないかと思う。

(委員)

- ・「グッドローカル農業」という言葉を使うのであれば、その言葉に豊岡でめざす農業の姿を入れ込み、それを誰でも説明できるようにすることも考えられる。

○ビジョンの目標・目標値について

(委員長)

- ・農業経営体の数を目標とすることについて、経営体によって規模や経営戦略は異なるし、経営体の数は市場の結果でしか決まらなると考えるので、目標として設定するのは原理的に難

しいのではないか。

- ・強いて目標を設定するのであれば、全体の販売金額や農地面積ではないか。または、目標値は一切なしというのも案としてはある。

(委員)

- ・数字は結果だから、目標値は要らないと思う。ただ、地域それぞれに維持していかなければならない人数というのはある。

(事務局)

- ・過去に策定した水産業振興ビジョンでは、漁港を維持するための最低限の漁船の数などを目標値として設定したが、そのように具体的な施策に活かすための目標値が必要な場合もある。農業ビジョンでも、そういう部分があれば目標値を設定することも考えられる。

(委員)

- ・目標が誰にとって大事なのかをはっきりさせなければならない。
- ・消費者と生産者が気持ちをひとつにして、消費者にも地域の農産物を外に発信していただけるような地域になればよいと思う。

(委員)

- ・ビジョンに環境、経済、社会を掲げるのであれば、それぞれの指標を作ることも考えられる。人数や面積、経済ではない部分の目標、豊岡らしい目標が設定できればよいのではないか。

(委員)

- ・これくらいは維持しないと大変なことになるという維持目標は作っておいた方がよいのではないかと思う。

(委員)

- ・目標設定の対象としては、どうしても平場農業などになってしまうが、条件不利地も考慮する必要がある。その場合、数値目標が難しい場合は、言葉で目標を立てることも有効ではないか。但東地域の農業ビジョンはその意味で参考になる。

(委員長)

- ・目標数値を設定することの目的や意味、メリットなどをよく検討することがまずは必要。
- ・よくあることとしては、目標が複数の担当部署に関わっており、その進行管理の責任の所在が曖昧になって管理されない場合もある。

○豊岡市らしいアイデアについて

(事務局)

- ・全国で同じような状況が進んでいる中では、豊岡でも類似の取組になりがちであるが、豊岡でしかできないことをしたい。目玉となるようなことをビジョンに取り入れたい。

(委員)

- ・三島市（静岡県）のジャガイモを深掘りして付加価値を付けたコロッケのように、コウノトリ米を何か加工をして作るなど深掘りして目玉となるようなものを作るというのは面白いのではないか。

(委員長)

- ・近年、「食料主権」という考え方もある。(食料主権とは、食物を作る権利だけでなく、選ぶ権利、安全に食べる権利など生存権ともいえる幅広い権利が含まれる。) 地域が「食料主権」を持ち、例えば、グローバルGAPの認証を受けて輸出する人がいてもよいし、地産地消に専念する人がいてもよい。そうしたことも含めて、豊岡の「良い農業」の概念を作っても面白いのではないか。

(委員)

- ・農業の多面的機能の中で、遊水地としての防災機能は大切であり、その政策的な支援を重視してはどうか。

(委員長)

- ・防災に貢献する農業者を、環境支払の対象として考えるという検討も必要である。

(委員)

- ・豊岡の農業は恵まれている部分もあり、農業をするにしても様々な選択肢がある。しかし、これしかないという方が農業としては強い場合もある。それぞれの地域に何ができるか、どんな答えがあるかを地域として考えていくことが重要だと思っている。

○スマート農業について

(委員)

- ・全部自動化した農業が楽しいかは疑問。農業の面白さはただお金を稼ぐところだけではなく、環境を守っていることなど色々なことを感じながらやるところにある。

(委員)

- ・スマート農業が進むことにより、効率よく農業ができない地域が軽視されるようなことは良くないと考えている。

(事務局)

- ・無人トラクターだけでなく、草刈りロボットやアシストスーツなど、手軽に農作業をサポートするものもスマート農業として位置づけられている。豊岡らしいスマート農業がどのようなものかは考えていく必要がある。

(委員長)

- ・自分の手でコントロールすることにより感じる幸福はあるはず。そのような部分とスマート農業が、今後どのような関わりになっていくのかは十分考える必要がある。

5. その他

- ・次回委員会について

平成31年3月8日(金) 午後 市役所3階庁議室

6. 閉会

平峰委員より閉会の挨拶を行った。